

追加型投信／内外／株式

# グローバル・ヘルスケア& バイオ・ファンド

愛称：**健次**



## ファンドに係るリスクについて

基準価額は、組入有価証券等の値動きや為替相場の変動等により上下します。また、組入有価証券の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の影響を受けます。したがって、投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。運用による損益はすべて投資者の皆様には帰属します。ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「株価変動リスク」や「為替変動リスク」等があります。※くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

## ファンドに係る主な費用について

ファンドへの投資に伴う主な費用は以下の通りです。

- 購入時手数料
- 信託財産留保額
- 運用管理費用(信託報酬)
- その他の費用・手数料

本資料は投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。お申込みの際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

● お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は

● 設定・運用は



池田泉州銀行

商号等：株式会社 池田泉州銀行  
登録金融機関 近畿財務局長(登金)第6号  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

巻末の「本資料に関してご留意頂きたい事項」を必ずご覧ください。

# ファンドの目的・特色

## ファンドの目的

信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

## ファンドの特色

1

### 世界主要先進国市場のヘルスケア・バイオ関連企業の株式を主要投資対象とします。

- ◆世界主要先進国市場の中から、製薬、バイオテクノロジー、医療製品、医療・健康サービス関連企業等の株式に分散投資を行います。
- ◆株式の組入れは、原則フルインベストメントとします。

#### 主なヘルスケア・バイオ産業



#### 製薬

大衆医薬品、医療機関向け医薬品の製造・開発企業等



#### バイオテクノロジー

遺伝子の分析・研究を基に治療薬等の製品を製造・開発する企業等



#### 医療製品

医療機器の製造・開発企業等



#### 医療・健康サービス

病院経営、医療品卸、医療保険企業等

2

### ファンダメンタルズの健全な企業へ長期的なバリュー投資を行います。

- ◆新商品の開発、企業の合併・統合、政策変更等を背景としたヘルスケア・バイオ市場の変化によってもたらされる投資機会に着目します。
- ◆銘柄選定は、ヘルスケア・バイオ関連企業のファンダメンタルズ分析に基づいて行います。企業の事業見通し、新商品の見込み、企業戦略、競争性等に重点を置いたボトムアップ・アプローチを行います。
- ◆外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

資金動向や市況動向等によっては、特色1、特色2のような運用ができない場合があります。

3

### 運用指図に関する権限の全部または一部をウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下ウエリントン・マネージメント社とすることがあります。)に委託します。

- ◆ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーは、1928年に創業した米国最古の運用機関の一つです。
- ◆ヘルスケア・セクターでは世界最大規模のファンドの運用アドバイザーを受託しています。

4

### 年2回決算を行い、収益の分配を行います。

- ◆毎年2月27日および8月27日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。

#### 収益分配方針

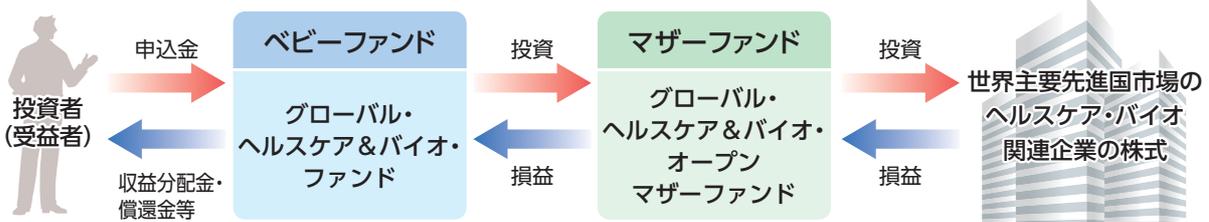
- ・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- ・委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。(ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないこともあります。)

将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではなく、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。

原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円(10,000口当たり)を超えている場合には、当該超えている部分について、分配対象額の範囲内で、全額分配を行います。(資金動向や市況動向等により変更する場合があります)

## ■ファンドのしくみ: ファミリーファンド方式により運用を行います。

ファミリーファンド方式とは、受益者から投資された資金をまとめた投資信託をベビーファンドとし、その資金の全部または一部をマザーファンドに投資して、マザーファンドにおいて実質的な運用を行う仕組みです。



※当ファンドは、グローバル・ヘルスケア&バイオ・オープン マザーファンドのほか、株式へ直接投資することがあります。

# 巨大成長産業としてのヘルスケア・バイオ

## ヘルスケア・バイオ市場の成長イメージ

安定した利益成長・堅調なパフォーマンス

①

高齢化の進展に伴う医療費の増加  
(先進国)



②

人口増加と所得増から見込まれる医療費の増加(新興国)



③

バイオテクノロジーの進化と治療領域の広がり  
(バイオ医薬品の発展)

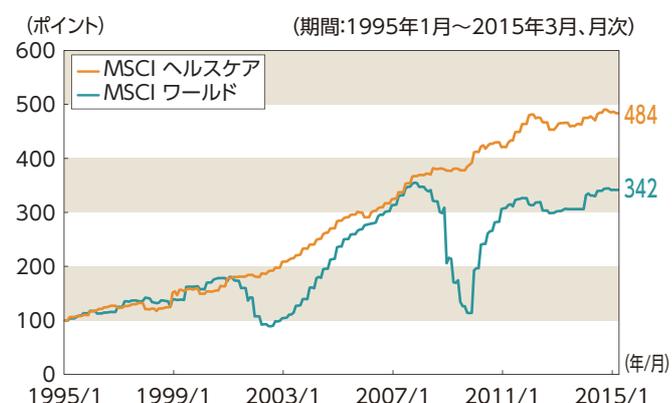


※図・写真はあくまでもイメージです。

## 安定した利益成長と堅調なパフォーマンス

- 医療関連への支出は人の命や健康に関わるため、景気に影響されにくい傾向にあります。このことから、ヘルスケア・バイオ関連企業の業績も景気動向に左右されにくく、株価の変動幅も相対的に小さい傾向にあります。近年のリーマンショックや欧州債務問題を背景とした株価低迷時においても、株価の下落幅は比較的小幅に留まりました。
- また、足元では業績の伸びが期待できるバイオ関連銘柄などがヘルスケアセクターの上昇を牽引しています。

ヘルスケアセクターの企業のEPS(1株当たり利益)の推移



ヘルスケアセクターのパフォーマンス



【出所】Bloomberg

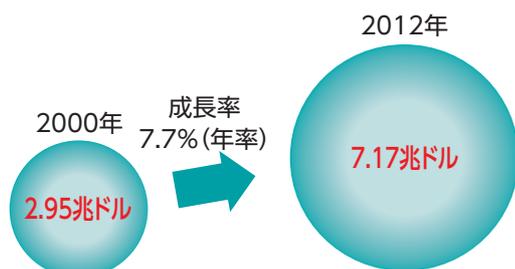
※MSCI ヘルスケア(MSCI ワールド・ヘルスケア・インデックス(米ドル建))およびMSCI ワールド(MSCI ワールド・インデックス(米ドル建))は当ファンドのベンチマークではありません。パフォーマンスは税引き後配当込みを使用しています。

※EPS、パフォーマンスとも1995年1月を100ポイントとして指数化

## ヘルスケア市場規模

世界のヘルスケア関連支出額は、世界のIT関連支出はおろか、日本のGDPを上回る規模となっています。また、2000年から2012年までのヘルスケア関連支出額の成長率は、年率7.7%となりました。

世界のヘルスケア関連支出



【出所】IMF、国連、各種資料を基に三菱UFJ国際投信作成

ご参考(2012年)

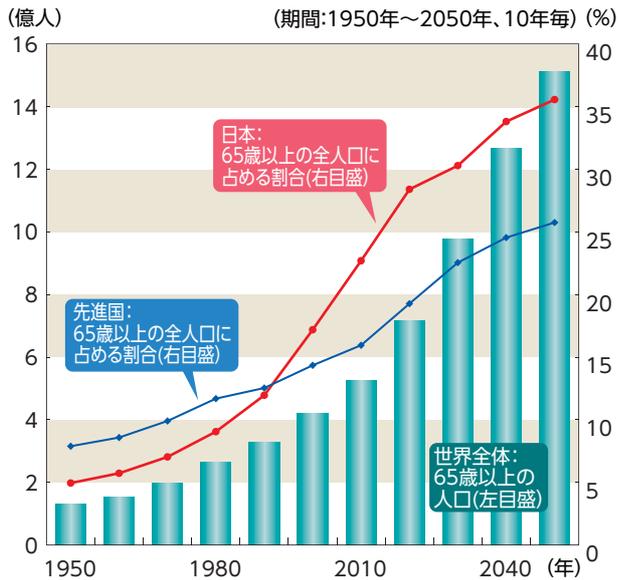


# ヘルスケア・バイオ市場 3つの成長ドライバー

## ① 高齢化の進展に伴う医療費の増加 (先進国)

- 先進国では高齢化が一段と進展する見込みです。
- 高齢者人口の増加は、医薬品需要の長期的な拡大を支える要因になると考えられます。

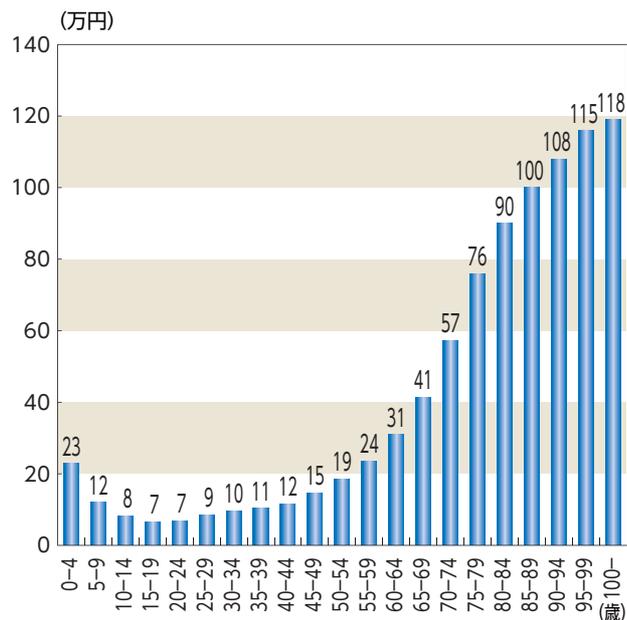
65歳以上の人口、割合



【出所】国連World Population Prospects : The 2012 Revision  
2020年以降は国連による推測値

※本頁における先進国、新興国は国連の定義によります。

日本の年齢階級別1人当たり年間医療費 (平成24年度)

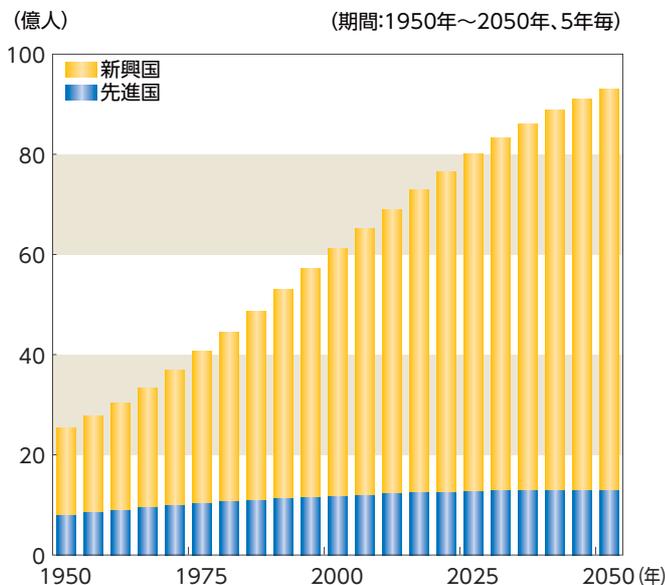


【出所】厚生労働省「医療給付実態調査」

## ② 人口増加と所得増から見込まれる医療費の増加 (新興国)

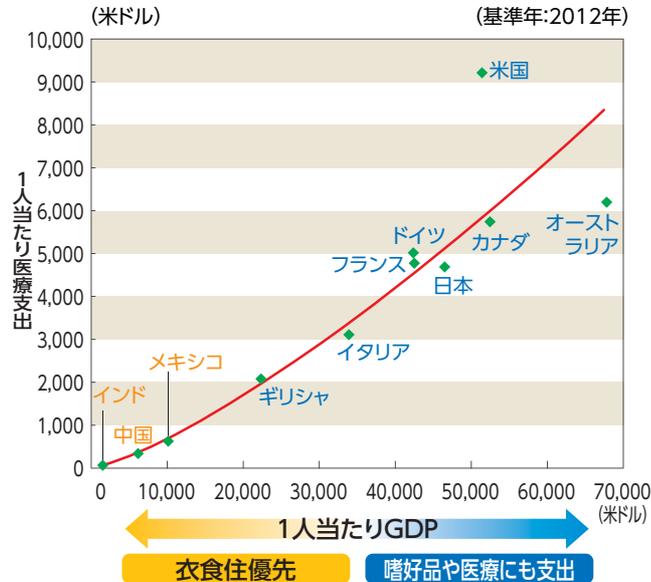
- 世界の人口は、新興国を中心に増加する見込みです。
- GDPと医療支出には相関関係が読み取れます。新興国では、今後経済成長により1人当たりGDPが高まることで医療支出の増加が見込まれ、世界全体の医薬品需要を牽引すると予想されます。

世界の人口推移



【出所】国連World Population Prospects : The 2012 Revision  
2015年以降は国連による推測値

GDPと医療支出の関係



【出所】世界銀行、IMF World Economic Outlook Database, October 2014

※赤線は累乗近似曲線で傾向を示しています。



### ③ バイオテクノロジーの進化と治療領域の広がり(バイオ医薬品の発展)

#### ■ バイオ医薬品の売上高拡大

2013年の世界の医薬品売上高ランキングを見ると、2005年と比べバイオ医薬品の売り上げが増加してきました。今後もバイオ医薬品は難治療分野への展開が見込まれ、売り上げの拡大が期待されます。

世界の医薬品売上高上位10品目(2005年vs2013年)

【2005年】 (百万ドル)				【2013年】 (百万ドル)				
順位	製品名	メーカー	売上高	順位	製品名	主な薬効/クラス	メーカー	売上高
1	リピトール	ファイザー/アステラス	12,963	1	ヒュミラ	関節リウマチ	アヅヴィ/エーザイ	11,024
2	プラビックス	サノフィ・アベンティス/BMS	6,223	2	レミケード	リウマチ/クローン病	J&J/メルク/田辺三菱	9,727
3	エボジェン/プロクリット/エスポー	アムジェン/J&J/キリンビール	6,145	3	リツキサン	非ホジキンリンパ腫他	ロシュ/バイオジェン・アイデック	8,906
4	ノルバスク	ファイザー/大日本住友他	5,245	4	エンブレル	関節リウマチ	アムジェン/ファイザー/武田	8,791
5	セレタイド/アドベア	グラクソ・スミスクライン	5,168	5	アドエア	抗喘息薬(配合剤)	グラクソ・スミスクライン	8,756
6	ネクシアム	アストラゼネカ	4,633	6	ランタス	糖尿/インスリンアナログ	サノフィ	7,867
7	タケロン/プレバシッド	武田薬品/TAP/ワイス/アボット他	4,394	7	アバステン	転移性結腸がん	ロシュ/中外製薬	7,023
8	ゾコール(リボバス)	メルク	4,382	8	ハーセプチン	乳がん	ロシュ/中外製薬	6,827
9	ジプレキサ	イーライ・リリー	4,202	9	クレストール	高脂血症/スタチン	塩野義/アストラゼネカ	6,718
10	リツキサン/マブセラ	バイオジェン・アイデック/ロシュ/中外	3,867	10	ジャヌビア	2型糖尿病/DPP4	メルク/小野薬品/アルミラル	6,263

※上記は製品名・メーカー名をご紹介するものであり、上記銘柄の購入を推奨するものではありません。

また、これらの銘柄が必ずファンドに組入れられるとは限りません。

※赤字はバイオ医薬品

【出所】セジデム・ストラテジックデータ株式会社ユート・ブレーション事業部の調査による

#### バイオ医薬品とは?

- 遺伝子組換えや細胞融合などを活用し、微生物や動物細胞など生体機能を利用して作られた医薬品です。
- 従来の医薬品より副作用が少なく、体に優しく作用します。

#### バイオ医薬品の登場で何が変わるの?

- 現在十分な治療効果が出ていない癌や糖尿病、アルツハイマーなど難治療分野への医薬品の開発期待が高まっています。

患者さんの負担軽減につながり、生活の質の改善に役立っています。

#### ウエリントン・マネージメント社の紹介 (2014年12月末現在)

##### 会社組織

- 創業1928年・・・長い歴史と伝統を誇る運用会社
- ボストンを本拠に、グローバル展開する運用会社
- ・運用資産額9,137億ドル(約110兆円、1ドル=120.55円で換算)
- ・世界50カ国以上のお客様に資産運用サービスを提供
- ・世界12拠点に、2,000名以上の従業員(うち運用プロフェッショナルは590名)



モーニング・ミーティングの様子

##### 経験豊かなヘルスケア・チーム

運用担当者：7名のアナリスト兼任ファンド・マネージャー制  
 ヘルスケア株式平均カバー歴：約22年  
 チーム運用資産：約542億ドル(約6.5兆円、1ドル=120.55円で換算)  
 ヘルスケア・セクターでは世界最大規模のファンド(※)の運用アドバイザーを受託。

(※)ヴァンガード・ヘルスケア・ファンド(Vanguard Health Care Fund)

設定日:1984年5月23日

純資産:460億ドル(2015年1月末現在)(約5兆4,400億円、1ドル=118.25円で換算) 【出所】Bloomberg

【出所】ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー

## ■ 基準価額・純資産の推移 (過去10年間)



## ■ 分配の推移

(1万口当たり・課税前)

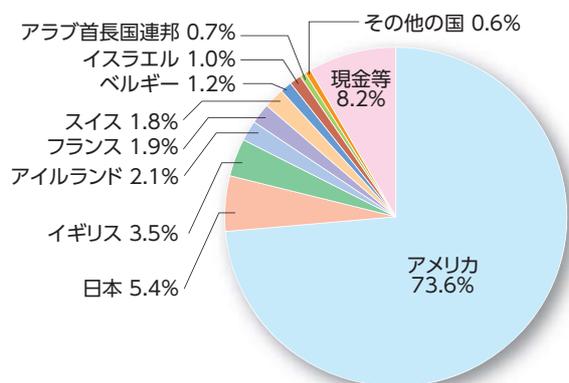
2015年2月	2,810.0円
2014年8月	522.0円
2014年2月	2,796.0円
2013年8月	2,253.4円
2013年2月	0.0円
設定来累計	12,525.8円

## ■ 主要な資産の状況

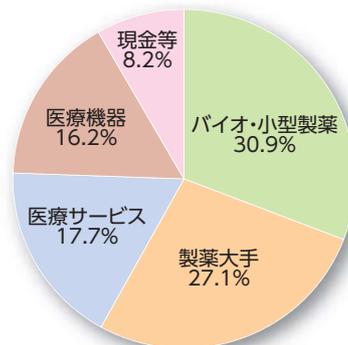
### ■ 主要な組入銘柄

銘柄名	国・地域	業種	比率	銘柄名	国・地域	業種	比率
1 ブリストル・マイヤーズ スクイブ	アメリカ	製薬大手	6.6%	6 メルク	アメリカ	製薬大手	4.0%
2 イーライ・リリー	アメリカ	製薬大手	4.4%	7 ギリアド・サイエンシズ	アメリカ	バイオ・小型製薬	3.7%
3 メドトロニック	アメリカ	医療機器	4.3%	8 マッケソン	アメリカ	医療サービス	2.9%
4 アクタビス	アメリカ	バイオ・小型製薬	4.3%	9 アストラゼネカ	イギリス	製薬大手	2.6%
5 リジェネロン・ファーマシューティカルズ	アメリカ	バイオ・小型製薬	4.3%	10 セルジーン	アメリカ	バイオ・小型製薬	2.5%

### ■ 国・地域別組入比率



### ■ 業種別組入比率



●基準価額および課税前分配金再投資換算基準価額は2005年3月末を起点として表示。●当ファンドにはベンチマークはありません。●基準価額(1万口当たり)は、信託報酬控除後のものです。●課税前分配金再投資換算基準価額は、当ファンドの公表している2005年3月末以降の基準価額に、同年同月末以降の各収益分配金(課税前)をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、三菱UFJ国際投信が公表している基準価額とは異なります。●将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではなく、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。●比率とは、当ファンドの純資産に対する比率であり、マザーファンドの組入比率に基づき算出した実質ベースの数値で表記しています。●当ファンドの業種は組入銘柄を三菱UFJ国際投信独自の4業種に分類したものです。●現金等には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。●四捨五入の影響により、合計が100%にならない場合があります。

# 投資リスク

## 株価変動 リスク

株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式の価格が変動すれば当ファンドの基準価額の変動要因となります。

## 為替変動 リスク

当ファンドは、主に米ドル建の有価証券に投資します(ただし、これらに限定されるものではありません)。外貨建資産に投資を行いますので、投資している有価証券の発行通貨が円に対して強く(円安に)なれば当ファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く(円高に)なれば当ファンドの基準価額の下落要因となります。

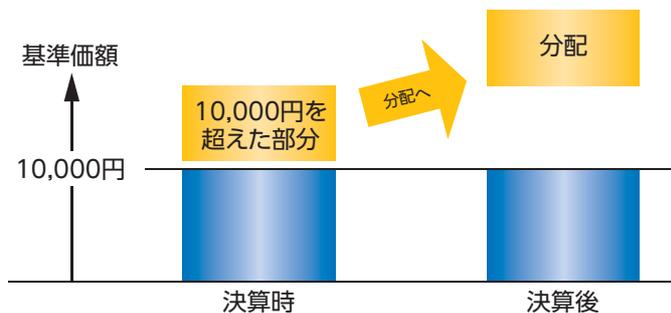
上記のリスクは主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。  
くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## その他の留意点

- ・投資信託(ファンド)の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。
- ・分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。
- ・受益者の個別元本によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。

## グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド<愛称:健次>の分配方針のイメージ

決算日に基準価額が10,000円(10,000口当たり)を超えている場合



当ファンドは、原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円(10,000口当たり)を超えている場合には、当該超えている部分について、分配対象額の範囲内で、全額分配を行います。(資金動向や市況動向等により変更する場合があります。)

(注) 分配後の基準価額が必ずしも10,000円になるとは限りません。

※上記はイメージ図であり、実際の収益分配金の額は基準価額水準・市況動向等を勘案して決定しますので、将来の分配をお約束するものではありません。

**将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではなく、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。**

### 「当ファンドに投資する際の注意点」

当ファンドは、主に世界主要先進国市場のヘルスケア・バイオ関連企業の株式に投資するファンドです。ヘルスケア・セクターに特徴的なディフェンシブ特性を有する銘柄が多くなるため、特定のセクターの変動による影響が大きくなる可能性があります。したがって、当ファンドの基準価額は、株式市場全体とは異なる動きをする場合があります。

### 「本資料で使用している指数について」

MSCIワールド・インデックスおよびMSCIワールド・ヘルスケア・インデックス(出所:MSCI)。ここに掲載される全ての情報は、信頼の置ける情報源から得たものでありますが、その確実性及び完結性をMSCIは何ら保証するものではありません。またその著作権はMSCIに帰属しており、その許諾なしにコピーを含め電子的、機械的な一切の手段その他あらゆる形態を用い、またはあらゆる情報保存、検索システムを用いて出版物、資料、データ等の全部または一部を複製・頒布・使用等することは禁じられています。

# 手続・手数料等

お申込みの際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## お申込みメモ

	購入単位	販売会社が定める単位
	購入価額	購入受付日の翌営業日の基準価額
	換金単位	販売会社が定める単位
	換金価額	換金受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額*を差引いた価額 *換金受付日の翌営業日の基準価額に <b>0.3%</b> をかけた額とします。
	換金代金	原則として、換金受付日から起算して5営業日目から、販売会社にてお支払いします。
	申込不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行のいずれかが休業日の場合には、購入・換金はできません。
	換金制限	当ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求には制限を設ける場合があります。
	信託期間	平成41年2月27日まで(平成16年2月27日設定)
	繰上償還	当ファンドの受益権の総口数が、当初設定時の10分の1または10億口を下回るようになった場合等には、繰上償還されることがあります。
	決算日	毎年2月27日および8月27日(休業日の場合は翌営業日)
	収益分配	半年ごとに(年2回)、収益分配方針に基づいて分配を行います。販売会社との契約により再投資することも可能です。
	課税関係	課税上の取扱いは株式投資信託となります。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」の適用対象です。 くわしくは、販売会社にお問い合わせください。 ※配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

## ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入受付日の翌営業日の基準価額に対して、 <b>上限3.24%(税込)(上限3.00%(税抜))</b> がかかります。 (購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社に確認してください。)
信託財産留保額	換金受付日の翌営業日の基準価額に <b>0.3%</b> をかけた額とします。

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	日々の純資産総額に対して、 <b>年率2.376%(税込)(年率2.200%(税抜))</b> をかけた額とします。
その他の費用・手数料	監査費用、有価証券等の売買・保管、信託事務にかかる諸費用等についても当ファンドが負担します。 監査費用は、日々の純資産総額に対して、年率0.0108%(税込)(年率0.0100%(税抜))をかけた額とします。 ※監査費用以外のその他の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎決算時または償還時に当ファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。

## 委託会社およびファンドの関係法人

委託会社/三菱UFJ国際投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
加入協会:一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会  
受託会社/株式会社りそな銀行  
(再信託受託会社:日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)  
投資顧問会社/ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー  
販売会社/販売会社の照会先は以下の通りです。

### 三菱UFJ国際投信株式会社

☎0120-759311(フリーダイヤル)

受付時間/営業日の9:00~17:00

●ホームページアドレス:<http://www.am.mufg.jp/>

### 本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は三菱UFJ国際投信が作成した販売用資料です。投資信託の取得のお申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)を販売会社よりお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。なお、以下の点にもご留意ください。  
○投資信託は預金等や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。○銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。○本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。○本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。○本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。